



## ◇ 2025年 BEST大会に参加して ◇

(北海道大学) 中島 一紀

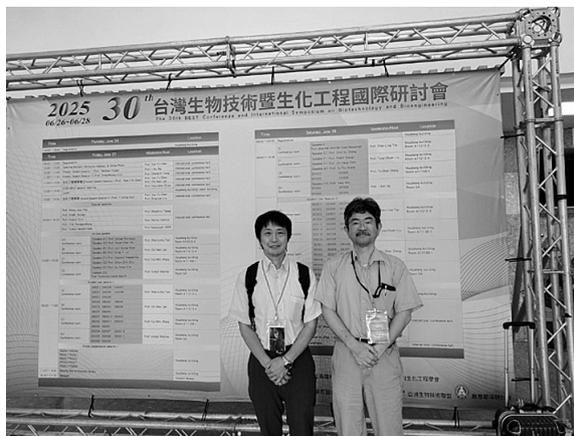
2025年6月26日(木)~28日(土)の日程で、台湾のBiotechnology and Biochemical Engineering Society of Taiwan (BEST) のThe 30th BEST Conference & International Symposium on Biotechnology and Bioengineeringが高雄のNational Kaohsiung University of Science and Technology (国立高雄科技大学)で開催された。日本生物工学会(SBJ)からは、青柳秀紀先生(副会長・2023年度生物工学功績賞・筑波大学)、中島田豊先生(2024年度生物工学功績賞・広島大学)、筆者(2022年度生物工学奨励賞(照井賞))の3名が招待され、講演を行った。また、柘植丈治先生(東京科学大学)はPlenary Speakerとして基調講演を行い、高木昌宏先生(北陸先端科学技術大学院大学)、堀克敏先生(名古屋大学)、神谷典穂先生(九州大学)はModeratorとして参加された。本大会はBESTの30周年記念ということで、アジア各国からの生物工学研究者が多数参加していた。

6月26日夕方のWelcome Receptionから始まり、翌27日午前から2025 BEST大会がスタートした。Opening RemarksではSBJの代表として青柳先生が30周年記念大会開催のお祝いのお言葉を述べられた。その後、柘植先生(講演題目: Polyhydroxyalkanoates Production from CO<sub>2</sub> as Sole Carbon Source by Engineering Hydrogen-Oxidizing Bacteria)、およびKSBB会長のProf. Dong-Myung KimによるPlenary Speechが行われた。ランチ後の午後のParallel sessionsでは、青柳先生(講演題目: Characteristics of the conventional microbial cell culture method and its applications)、中島田先生(講演題目: Development of thermophilic gas fermentation process for production of volatile bulk chemicals)がご講演を行い、アジア各国の研究者との活発な議論が行われた。休憩を挟んで、Invited speakerのセッションで筆者(講演題目: Enzyme-triggered aggregation of inorganic materials for resources and environmental engineering)を含む招待講演者が講演を行い、引き続き行われた学生による口頭発表のセッションで大会1日目は終了した。その後、ホテルに会場を移し、バンケットが執り行われた。

バンケットはシャンパンタワーでの乾杯、およびバンド演奏で盛大に始まり、会の序盤こそ台湾、日本、韓国、タイ、マレーシアなど各国のテーブルに分かれていたが、その後会が進むにつれ、国を超えた研究者の親密な交流が行われた。毎回恒例(?)のカラオケ大会でも大いに盛り上がり、非常に楽しいひとときであった。

6月28日は、筆者は主に学生によるInternational Sessionでの口頭発表を聞いていたが、台湾、韓国、タイの学生が流ちょうな英語で発表しており、教授陣からの厳しい質問に対しても臆することなく、自信をもって回答している様子が印象的であった。大会の最後には、各賞の授賞式が行われ、Closing CeremonyではBESTの次期会長となるProf. Chi-Wei Lanが紹介された。

今回の開催および参加に際して、様々なご準備をいただいたBEST関係者各位、SBJの先生方および事務局スタッフに心より謝意を表す。



(左) 会場となった国立高雄科技大学、(右) 会場での筆者と中島田先生



(左) Opening RemarksでSBJ代表としてスピーチされた青柳先生, (右) 柘植先生による Plenary Speech



(左) Moderatorの堀先生と招待講演者の中島田先生, (右) バンケットの様子